

上海市における女性の人工妊娠中絶及び避妊に関する意識について

国立公衆衛生院 林 謙治
上海医科大学 汪 玲

避妊・人工妊娠中絶はその国の文化、政策に関連するところが大きいが、中国のように人

口政策の一部として行っている国もあり、人権問題はともかくとしてもサービス供給体制について研究するは意義があると考ええる。昨年度に行った研究のリサーチクエスチョン①②「20歳以上の人工妊娠中絶について予防は可能か」の補完として上海医科大学の付属病院、診療所に訪れる女性患者1002名（20-49歳）に対し面接調査を行った。

昨年度の東京及びその周辺病院における調査にくらべ、未婚者が少なく99%が既婚者であった。東京地域では88%の女性が2-3人のこども数を希望すると答えていたが上海では98%が1-2人と答えている。一人っ子政策が奨励されている中で理想こども数を2人と挙げる人は23%いたことは興味深い。過去1ヵ月間の性交回数は平均5.4回（東京：2.6回）であり2倍強であった。特に20-35歳における格差が大きい。

避妊実行率は78%と東京の倍であり、とりわけ30歳以上の避妊実行率が高い。避妊方法を見ると、表に示すように東京とは際立った違いが見られる。東京では普及率が低いIUDを68%の女性が使用しており、また、低容量ピルが認可されているにもかかわらず使用者はわずか7.7%に過ぎない。ピルを使わない理由として副作用を挙げるものが最も多いが、東京よりは14%低い。回答結果を総合的に見ると、すでにIUDを使用しているためにわざわざ面倒なピルを使う必要もないとの判断があるものとみられる（表）。

避妊の知識源として約40%が雑誌からと答えており、東京の44%とあまり差がない。ただし、医療機関、保健所からは39%に達しており（東京：13%）の約3倍であった。夫からは上海、東京とも11%と変わらず、親・友達からは上海のほうがやや低い。夫と避妊についての話し合いは90%（東京：73%）にも達しており、東京の「話し合っていない」や「わからない」と答えた人が25%に達しているのとはかなり様子を異にしている。ただし、夫の協力

度については上海の方がやや高率であったに過ぎない（東京：81%、上海：88%）。

避妊の方法

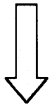
	東京		上海	
	人数	%	人数	%
オギノ式・基礎体温法	345	23.7	119	12.9
膣外射精	49	3.4	40	4.3
コンドーム	937	64.4	245	26.5
洗浄法	4	0.3	1	0.1
ゼリー・錠剤	27	1.8	2	0.2
ペッサリー	3	0.2	0	0.0
IUD	30	2.1	625	67.6
ピル	42	2.9	71	7.7
不妊手術(女性)	5	0.3	32	3.5
不妊手術(男性)	4	0.3	2	0.2
その他	8	0.6	4	0.4
計	1454	100.0	1001	100.0

中絶を考えたときの相談相手として夫を挙げている割合は東京よりやや低く51%（東京：64%）であったが、自分で考えた割合は25%と東京の1.8%より遙かに高い。中絶を認める理由として東京では「妊娠初期ならよい」および「避妊に失敗したときなら認められるべき」を合せて24%であったが上海は43%にも達する。逆に東京では「経済的理由」および「母体の健康」を挙げたのが72%にもなるが、上海はわずか11%にすぎない。中絶時の施設選択理由は地理的に便利がもっとも多く、東京とほぼ同率の30%台であった。上海では病院が良いことを理由にしているのが26%あったが東京では8%程

度である。興味深いことに東京では知人の紹介が20%であるのに比べ、上海は7%程度で、医療関係者の紹介は東京では5%が上海では16%であった。

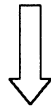
中絶後の医師からの避妊に関するカウンセリングに満足したかどうかについて東京では満足したが23%であったが上海では55%であった。不満足であったとしているのが両地区とも変らないが（東京：46%、上海42%）「わからない」としているのは東京の方が圧倒的に高い。この点について中絶後の健康相談についてもほぼ同様なパターンを示しているが、上海では不満として割合が満足している割合より高い。すなわち上海では満足、不満足がはっきりしおり、また、中絶後のカウンセリングが健康問題よりも避妊に重点をおいていることが伺える。

このように避妊の知識源や避妊方法の選択理由など基本的な態度では上海においてもかなり東京と共通している部分があるが、サービス供給面では上海において保健医療機関の果たす役割が大きいことが注目される。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



避妊・人工妊娠中絶はその国の文化、政策に関連するところが大きいですが、中国のように人口政策の一部として行っている国もあり、人権問題はともかくとしてもサービス供給体制につはて研究するは意義があると考えます。昨年度に行った研究のリサーチクエスト
(1)(2)「20 歳以上の人工妊娠中絶について予防は可能か」の補完として上海医科大学の
付属病院、診療所に訪れる女性患者 1002 名(20-49 歳)に対し面接調査を行った。